

2026年1月の「資本論まなぶ会」の報告と2月の連絡

★2026年1月31日(土曜日)午後2時から5時近くまで、大東市サーティーホール公民館3階(料理室)に、6人の参加者(二人から欠席の連絡)がありました。

★午後2時から3時までは『資本論』第一章「商品」の第三節「価値形態または交換価値」の「C一般的価値形態」の第1パラグラフから第5パラグラフまでしました。

最初に出された疑問は、第1パラグラフと第2パラグラフで言われていることが違うというものでした。**第一パラグラフでは**、商品はそれぞれの価値を「いまや(1)簡単に表している」と言い「(2)統一的に表している」と言っている。しかし、**第二パラグラフでは**「形態IやIIは一商品の価値を、その商品の使用価値とは区別されたものとして表現した」と言っている、整理が付かないというものでした。この疑問に対しては、**第一パラグラフで問題になっていることは「一般的価値形態において」**であり、**第二パラグラフでは「形態Iおよび形態II」**の特徴が問われているという指摘があり、了解されました。

次に出された疑問は、第3パラグラフの次の文でした。「第一形態は、1着の上着=20エルのリンネル、10ポンドの茶=1/2トンの鉄、などの様な価値等式」と言われているが、「上着」と「リンネル」の交換ならまだしも、「茶」と「鉄」は**実際に交換されるのか**。例題としてならいいが、実際にはあり得ないのではないのかというものでした。

この疑問に対しては、確かに現代社会において、「鉄」と「茶」とが交換されるということとは考えにくいかも知れない。がしかし、鉄を売ってもらった「御礼」に、お茶をプレゼントすることはあり得るし、**かつてエジプトでピラミッドが作られた時代を考えると、鉄が使われたり、仕事の合間にお茶が飲まれたりしたと思われるので、鉄とお茶の物々交換もあったのではないか**、という返答がありました。

次に出された疑問は、第4パラグラフの次の文でした。「第二の形態は、第一の形態よりも完全に、一商品の価値を、その商品自身の使用価値から区別する。」と言われているが、昨年12月と11月の「資本論まなぶ会」を休んだこともあって、「**第二の形態**」の意味が**分からない**、というものでした。この疑問に対しては、A「簡単な、個別的な、または偶然的な価値形態」と、B「全体的な、または展開された価値形態」が具体的に確認されました。それによって、**Bでは「z量の商品A=u量の商品B または=v量の商品C または=w量の商品D または=x量の商品E または=等々」となっていることが確認**されました。

次に出された疑問は、第4パラグラフの次の文についてでした。「展開された価値形態が、はじめて実際に現れるのは、ある労働生産物、例えば家畜が、もはや例外的にではなく、す

でに習慣的に、他の様々な商品と交換される時である。」と言われているが、**家畜は労働生産物なのか？**という疑問が出されました。この疑問に対しては、かつての日本の田舎では、農家でメス牛が飼われており、その牛を使って農作業をしたり、その牛に子供を産ませるためオス牛を連れて来たりしたという報告がありました。それによって、「**労働生産物の幅が広がった、イメージが広がった、養殖もあるのか**」といった感想がありました。また生産的労働と言えば、農業、林業、猟師がイノシシを取るのも労働だ、という返答がありました。

次に出された疑問は、第5パラグラフの次の文についてでした。「リンネルに等しいものとして、どの**商品の価値**も、いまや、その商品自身の使用価値から区別されているだけでなく、およそ使用価値というものから区別されており、正にそのことによって、その商品とすべての商品とに共通なものとして、表現されている。」と言われているが、**この商品は、資本主義の商品か、歴史的な商品か**という疑問が出されました。

これに対しては、『資本論』の一番初めの文が指摘されました。それは「資本主義的な生産の様式が支配している、諸社会の富は、『商品の巨大な集まり』として現れ、個々の商品は、その富の要素形態として現れる。それ故、我々の研究は、商品の分析から始まる。」というものです。第一編の「商品と貨幣」では、資本関係が捨象され歴史的な「商品生産社会」が取り上げられますが、**資本主義社会の商品が研究対象になっている**とされました。

先月、宿題とされた注23に出てくる「ベイリー」からの引用ですが、マルクスは**労働価値説の継承者である**ことが再確認されました。また、S・ベイリーは「このように、**同じ商品価値の種々雑多な相対的諸表現**を指摘する」と、マルクスが言っていることも確認されました。

★4時から5時までは、第8章「労働日」の第7節「標準労働日獲得のための闘争。イギリスの工場法が他国に及ぼした反作用」の第4パラグラフから、第8パラグラフ（第8章の最後）までしました。

★衆議院選挙が始まり、投票日は2月8日です。11もの政党が参戦しています。働く者の代表政党があるのかは難しい問題ですが、政権与党や排外主義を掲げ、反動的で軍事強化を謳う政党が目立ちます。『資本論』から学んだことを投票に生かしていきましょう。

★2026年2月の「資本論まなぶ会」は、21日（第3土曜日）の2時から4時過ぎまで、大東市サーティーホール公民館（JR住道駅から南へ徒歩5分）3階の料理室で行います。午後2時から3時過ぎまでは「C一般的な価値形態」の第6パラから始めます。3時過ぎからは第9章の「剰余価値の率と総量」第1パラグラフから始めます。

多くの参加者をお待ちしています。